



東 俣 野 6月号

東俣野小学校 学校だより

令和5年5月31日

人とのかかわりの中で

副校長 中山 純子

令和5年5月8日より、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の2類相当から5類相当に移行されました。それに伴い、「4年ぶりの」「久しぶりの」という言葉がつくニュースを多く耳にしました。「4年ぶりのイベント」「久しぶりの帰省」など、今までできなかったことがいろいろとできるようになり、社会も少しずつ変わってきています。

東俣野小学校でも、全校が体育館に集まったの朝会、保護者のボランティアの方にも手伝ってもらいながらのペア学年での体力テスト、特別支援学校の友達や地域の方々との交流など、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにできなかった活動が再開され始めています。さまざまな人とのかかわりが再開され始めているといえるでしょう。

人とのかかわりが増えると、当然うまくいかないことも起こります。「どうして私の気持ちを分かってくれないの?」「どうしてそんなことをするの?」など思うこともあるでしょう。そんな時に大切になってくるのが、「相手の気持ちを考えること」そして「自分の気持ちを上手に伝えること」です。でも気持ちは目には見えません。どうしたらよいのでしょうか。そこでキーワードとなってくるのが「言葉」です。もちろん言葉だけでなく、表情やしぐさなどで気持ちを伝え合うこともできます。でも、さらに言葉の引き出しが増えると、自分の考えを深めたり、気持ちを的確に伝えたりすることができるようになります。相手の言葉を聴くことで、気持ちを理解することができるようになります。言葉に関心をもつことは、人との関係を深めることにつながるのではないかと思います。

言葉によって、自分の考えを表現し、相手の考えを理解する、そして高め合うことができると相手のよさを知り、相手を思いやる心が育ってきます。言葉の引き出しを増やしてさまざまな人とのかかわりを深めていってほしいと思います。